

第3回全国高等学校情報教育研究会 石川大会

第3回大会事務局長
石川県立金沢二水高等学校教諭 鹿野 利春

1. はじめに

平成15年に教科「情報」が導入されて以来、多くの研究や授業実践が行われてきた。これらの研究や実践と現場教員をつなぐ研究会は、全国各地で開催され、情報教育の進展に大きな力となったことは、周知の事実である。

しかし、都道府県の枠を超えた動きが開始されるまでには、しばらくの時間が必要であった。このような動きとして、平成17年度に関西で教科情報合同研究会が始まり、同じ年度に関東で合同研究大会が開催されている。

関西の大会は、情報教育合同研究会と名称を変えて、第6回研究会は平成22年12月4日に園田学園女子大学で開催された。また、関西では私学の情報研究会も活発な動きを見せている。

関東では、平成18年度に関東都県情報教育研究会が結成され、平成19年度に東京都と近郊の県の垣根を超えた大会が開催された。この大会には、関東以外の都道府県からの参加も多く、全国的な活動の高まりとともに、全国組織の必要性が実感された。

全国高等学校情報教育研究会は、これらの活動の流れを受けて平成20年度に第1回大会が神奈川県で開催された。これは、関東都県高等学校情報教育研究会との共催であり、参加者は300名を超えた。平成21年度には、同様の形で第2回大会が茨城県つくば市で開催され、参加者は約260名であった。

今回の第3回大会は、石川県の金沢工業大学で平成22年8月20・21日の2日間にわたって開催された。記録として残る参加者は200名であるが、

準備のみに携わった方、企業関係者、金沢工業大学のスタッフ等を入れれば250名以上の方が大会に関わったことになる。本稿ではその大会の様子を説明する。

2. 大会の特徴と概要

第3回大会は、表1の概要のように開催された。今大会の特徴は以下のとおりである。

- ・日程を従来の1日から2日にした。
- ・初めて大会要項の冊子を作った。
- ・ポスターセッションを充実した。
- ・ワークショップを開催した。
- ・関東を離れた初めての大会であった。
- ・関東都県情報教育研究会の支援をいただいた。
- ・情報科教育学会の後援をいただいた。
- ・準備作業や会場表示を簡素化した。
- ・運営に携わる人数を減らした。

表1 第3回大会の概要

テーマ	「ICTコンパス～新たな風～」
日時	平成22年8月20日(金) 13:00～17:00 平成22年8月21日(土) 9:30～12:40
場所	金沢工業大学
主催	全国高等学校情報教育研究会
共催	石川県高等学校教育研究会情報部会 日本情報科教育学会近畿・北陸支部
後援	石川県教育委員会 日本情報科教育学会
第1日：8月20日(金)	
13:00～13:30	開会式・総会
13:30～15:00	講演 新学習指導要領と教科「情報」～問い直せ！情報教育～ 永井克昇（文部科学省初等中等教育局視学官）
15:00～17:00	ポスターセッション
第2日：8月21日(土)	
9:30～12:05	分科会
12:10～12:40	全体会

表2 分科会の発表



写真1 会場となった金沢工業大学



写真2 全体会場

ポスターセッションは13件、分科会は17件、最後の全体会で1件、計31件の発表があった。

3. 講演

講演は、文部科学省初等中等教育局視学官の永井克昇氏により行われた。

講演では、情報活用能力について、「読み・書き・計算」につぐ第4の基礎力として国民必須の素養であることを強調された。

新学習指導要領については、縦方向には将来のスペシャリストを意識し、横方向には裾野を広げることを意識した縦横構造があることをわかりやすい図解で説明していただき、共通教科、専門教科の位置づけが理解できる講演であった。また、「教育の情報化に関する手引き」の概要も話された（手引きは平成22年10月29日付で発表）。

4. 分科会とワークショップ

4つの分科会に以下の17の発表があり、活発な質疑・応答がなされた（表2）。

第1分科会 「情報モラルと問題解決」

- ・「基礎情報学」と「情報C」
中島聡（埼玉県立大宮武蔵野高等学校）
- ・中国の情報教育から見る日本の情報教育
世良清（三重県立津商業高等学校）
- ・普通教科情報における「個人情報・プライバシー・肖像権に関する授業実践」
生田研一郎（中央大学杉並高等学校）
- ・問題解決力をつけるために
江守恒明（関西大学中部・高等部）

第2分科会 「メディアとコミュニケーション」

- ・マルチメディア科目の「実技試験」と「プレゼン試験」
五十嵐誠（神奈川県立横浜清陵総合高等学校）
- ・Global Usabilityに配慮した日本語学習支援教材の制作
佐藤万寿美（兵庫県立西宮今津高等学校）
- ・「図書館」と「情報」
石川伸明（愛知県立旭陵高等学校）
- ・岡山県立玉野光南高等学校における授業実践
草野泰秀（岡山県立玉野光南高等学校）

第3分科会 「情報の科学的理解」

- ・情報の科学的理解を助ける自作教材や小道具
天良和男（東京都立日比谷高等学校）
- ・アルゴリズムの思考による計測・制御と問題解決学習
稲川孝司（大阪府立東百舌鳥高等学校）
- ・モデル化とシミュレーションについての実践
野部緑（大阪府立桃谷高等学校）
- ・高等学校における起業シミュレーション
広田高雄（大阪府立今宮高等学校）

第4分科会 「研究会・専門教科の取り組み」

- ・専門学科「情報科」の現状と専門教科「情報」の指導
滑川敬章（千葉県立柏の葉高等学校）
- ・専門教科「情報科」での取り組みと問題点
綿貫俊之（東京都立新宿山吹高等学校）
- ・情報機器を利用する上でのコミュニケーションの工夫
坂本峰紹（埼玉県高等学校情報教育研究会）
- ・大阪私学教育情報化研究会の取り組み
米田謙三（大阪私学教育情報化研究会）
- ・メディア・リテラシー教育用教材の開発
岡本恭介（朴沢学園明成高等学校）

分科会以外では学習環境についての提案ということで、群馬県立万場高等学校の藤岡良一先生から「情報の授業における生徒のニーズ」についての発表があった。

また、ポスターセッションと並行して、大阪府立東百舌鳥高等学校の稲川孝司先生による計測・制御のワークショップが開催された。

5. ポスターセッション

ポスターセッションでは、表3の13件の発表(副題略)があった。これとあわせて16件の企業展示が行われ、会場は2時間の設定時間が短く感じられるほど活発な質疑・応答が行われていた。

表3 ポスターセッションの発表

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・パズル「数独」の解法の流れを利用したプログラミングの基礎的学習課程の構築
山上通恵(兵庫県立社高等学校)・プログラミング学習を活用した情報と数学の接続
谷川佳隆(千葉県立船橋豊富高等学校)・表現と内容の理解
若林庸夫(神奈川県立海洋科学高等学校)・色のいろいろ
近藤敏文(愛知県立天白高等学校)・SNSを活用した取り組みについて
能城茂雄(東京都立上野高等学校)・問題解決学習におけるテキストマイニングの実践
小原格(東京都立町田高等学校)・キャリア教育の充実を支える情報デザイン
五十嵐誠(神奈川県立横浜清陵総合高等学校)・つながればわかるさ！ネットワーク
田崎丈晴(千代田区立九段中等教育学校)・職業調べを題材にした授業の紹介
藤井拓也(茨城県立下妻第二高等学校)・茎崎高校における情報教育の現状と課題
寺島栄一(茨城県立茎崎高等学校)・効果的な教材研究
山下裕司(山口県立岩国高等学校)・国際交流を支えるネットワーク
林 道雄(石川県立鶴来高等学校)・マルチメディア絵本の作成
川谷内哲二(金沢大学附属高等学校) |
|--|

6. 全国大会を支えたもの

(1) 全国の先生方

本大会では、関東の全国事務局が運営するWebサーバで情報を発信し、発表・参加の申込、原稿の提出も同サーバで行った。全国大会のために設置されたメーリングリストによる活発な連絡や報告がお互いの理解を深め、大会開催の大きな力となった。このメーリングリストを通じて、発表者の最終的調整、座長の依頼なども行われた。ICTによって結ばれた全国の先生方が大会を支えたといえる。

(2) 石川県の先生方

石川県の情報研究会には約50名の先生方が所属しており、その80%に近い方が大会の運営に協力した。多忙な毎日の生活の中、前日の準備だけ参加いただいた方もいる。特に役員の方は、準備段階から多くの作業を引き受けていただいた。記して感謝したい。

(3) 企業や大学の方

本大会は多くの企業の協賛を得て出展企業は16社に及び、電子黒板やロボットなど、最新の機器を見て触れて学べる機会を提供いただいた。会場を提供していただいた金沢工業大学とあわせて、感謝の意を表したい。また、日本情報科教育学会近畿・北陸支部との共催ということで、関連の大学や高校の先生方にも多く参加いただき、ワークショップの開催や、研究発表への貴重なアドバイスをいただいた。

7. おわりに

全国の各都市で大会が開催され、情報教育関係者の交流が深まるとともに、地域の研究会が活性化されることで、情報教育の進展がなされていくことと思う。教育を作るのは、いつの時代でも人であり、人が人を育てることが教育の基本である。その意味で、学会や企業などの高校教育以外の方との交流も重要である。

来年度の全国大会は大阪で開催される。あふれる関西パワーで、ますますの発展を望みたい。